

知事との対話を通 『対話と実行』

県知事が市町村に出向き、地域の方々との対話を通じて、地域の実情や課題を把握し、地域の声を県政に反映させることを目的とした『対話と実行』座談会が11月4日、「すこやかセンター伊野で」行われました。知事から県の財政方針などについて説明が行われた後、住民の皆さんから意見が出され、知事が一人ひとりの話に感想や、助言等回答されました。



て見たときに表れてきていない。インフラ整備の遅れなどのハンディがあるが、ハンディがある中でも外に目を向けていくためにどういうことをしなければいけないのかを考えている。UITターンのことについても、今高知県は本当に県外に向けての情報発信ができていない。今後は「龍馬伝」もあるので、プレゼンスを高めるための投資をして、そのリターンが一定程度期待できる時期が来ると思っている。この好機を逃さず、取組を行っていきたくて考えている。

仁淀川を守り、山川、海の循環を大切にすることも必要だと思ふ。「高知は地球の環境のモデル」といったキャッチフレーズで、高知県環境基本計画という計画を作り、検討していく。

と思うが、お金の問題もあり、集落がなかったりすると、なかなか(開放は)厳しいようである。ただ、そういう素晴らしい観光資源があるというお話なので、今後の課題としたい。

川村起久子さん

(本川漁業協同組合理事)

ブラックバスが大変な問題になってきているが、全部駆除ということとは難しいと思うので、県で、食べる方向に持っていった方がいい。また駆除してもその魚を捨てるのではなく、売れる方向へ何とか導いてほしい。

仁淀川の河川敷に車の乗り入れが多いが、伏流水などを遮断して、魚の生育を妨げるという話を聞いたことがあるので、どこにでも勝手に入っていくということではないか。

私は、本川地域に住んでいるが、キジを飼う組合があり、味はよそにはひけをとらないと思っている。その良さを広く知らせてほしい。また、飼料について、農家から廃棄処分困っている果物や野菜を安く分けてもらえないか。取りに行ったらいくらで売ってくれるといった情報を得られないものか。

各地域ではサルやイノシシが多くなっているが、高齢者では、柵を作るといったことがなかなかできないので、援助がいただけませんか。

また、一人暮らしを少なくする取組としてサロンをしている。一人暮らしの高齢者の誕生日会をしているという話をどこかで聞いたが、資金がネックになっている。食べ物補助の対象にはならないと

知事 冬場に通行止めになっているのは、管理の問題ということのようである。何とかしたいところだ

知事 高知の財産は、山川、海で、特に川については、清流であるということが財産の中の財産である。単にきれいな水というだけでなく、いろいろな魚や生き物が住んでいて、川が滋味豊かであることが高知の非常な財産だと思う。砂利の話については、平成21年度に向け検討しており、関係者の皆さんとも話し合いをしている。

ウナギの話は、今のご指摘の内容を担当に伝え、後日今後の方針を説明する。

国友昭香さん

(仁淀流域素材生産業協同組合理事長)

良くならないか。

高知に住んでいる者自身が高知に誇りを持ち、なおかつ、「戻っておいでよ高知県」というような大キャンペーンをして、ふるさとの人口を増やせないか。

清流である仁淀川流域の中で、環境、資源循環型社会、エネルギーなどをキーワードにして、いの町が、生活のありとあらゆることについて環境に重きを置いた、地域にならないかと強く感じている。

知事 国道439号の改良は、いの町では、津賀谷工区と柳野工区で行っていて、津賀谷工区については、年度内に終わる。柳野工区は、時間がかかっているようであるが早期再開、早期完成を目指していく。

高知県は、ものすごい潜在力を持っているが、この力が、全体として



いうことだがその援助がどこかでできないか。

福祉について、臨時などの形態がいろいろな面が多いと思うが、社協とか福祉の場においては、どうしても経験が必要な場があると思うので、お金を削らずに、次代を担ってくれる人を育成していくことを考えていただきたい。

知事 ブラックバスを食べられると初めて知った。河川敷に車の乗り入れが多いと水源が切れるという内容は、今後勉強していく。キジの話は、地域支援企画員がバックアップをさせていただく。ハネ物をうまく組み合わせるといふ話は、地域と地域を結びつけることが公の役割と思っているので役場とも協力し取り組んでいく。